

群馬県知事神田坤六題額

天明三年八月五日午前十一時頃浅間山は春以来の激しい活動に止めをさすかのような大爆発をしたその時火口より灼熱した泥流と熔岩流を噴出し巨大な火の川となって山麓嬭戀村鎌原部落を埋没焼盡して吾妻川に流入し長野原地区に溢れた泥流はさらに吾妻川沿岸の村村を襲い利根川に合流し午後には早くも戸谷塚の西に達した死者千数百人家屋橋梁耕地の流出また多大であった死人と流出物は戸谷塚区域の利根川浅瀬一帯に打ち上げられたが殊に悲惨であったのは身許は勿論のこと容貌さえ判別し難い数多くの遺体であった戸谷塚村は往古より利根川の洪水ごとに激甚の被害を受けてきた村で特に元禄年間の水害の時は濁流が村内を奔流し土地の五分の四を失うという打撃を受けたがその時寄せられた隣人愛に報い遭難者を收容して慈悲の恩を返すのは此の時であると自からの苦難に思いを致して立ち上がり約七百人の遺體を連日村総出で搜索し懇に埋葬したという然るに夜な夜なに成佛できない死者の哭声が聴かれたので翌天明四年零細な金銭を出し合い石地藏尊を建立し果敢なく自然の暴威に命を落した諸靈の菩提を弔った大正初年耕地整理のため此所觀音堂境内に移転したが何時しかこの惨事も先祖の美挙も年とともに忘れ去られようとするのを惜しみ噴災百八十回忌を迎えるにあたり改めてこれを後の世に傳え併せて殉難者の靈を慰めるため災害激甚地嬭戀村および長野原町並に戸谷塚町の志有る人々の心暖まる協力でこの碑を建立し百八十年にして始めて子孫が手を結び盛大な供養を行った今日まで野に座したまゝ長い歳月を見守ってきた地蔵尊も明日からは此の碑に托してともども美しい人の世の恩愛を後の世に語り継ぐであろう如何なる時代にも人は孤立して生きることができない見えざる人と人の相互扶助によって生きているのであるがこと非常に際してはじめて明らかとなる知恵ある者は知恵を財ある者は財を力ある者は力を捧げてこそこの世の樂土は築かれてゆくのである戸谷塚の地に建てられた此の碑はこの不変の真理を永遠に教える指標となるであろうことを信ずる

昭和三十七年十一月七日

群馬県文化財専門委員 萩原進 撰文

群馬大学書道教官 米倉大謙 書